

学会便り

令和5年度第1回参与会報告

First meeting of advisory committee report

田中 宏樹
Hiroki TANAKA

参与会の目的は、学会の発展と健全な運営のために軽金属を利用する産業界や公的機関の高い専門性を有する方を参与とし、広い視点からの提言や助言を与えることである。また、経済産業省製造産業局金属課からも参与として参画いただいている。参与会が広い視点をもつための機会として、メーカー製造部門や公的研究機関を訪問し意見交換を行っている。株式会社IHI横浜事業所「つなぐラボ」訪問は令和2年7月に予定されたが、コロナ禍の影響で実施できなかった。今回、令和5年9月12日（火）に参与会メンバー16名がIHI横浜事業所の訪問を実施できたので、その概要を報告する。

IHIは1853年に造船所設立からスタートして、現在は資源・エネルギー・環境、社会基盤、産業システム・汎用機械、航空・宇宙・防衛の4つの事業領域に展開されている。また、共創による新しい価値を創出する狙いで「つなぐラボ」等の拠点を整備されている。今回の訪問ではカーボンソリューションにかかわる技術と共創活動について講演と施設見学で紹介を受け、活発な意見交換ができた。

まず、同社の福岡氏から横浜事業所ならびに技術開発本部の紹介をしていただいた。次にカーボンニュートラル関連の技術紹介を内田氏から実施いただいた。講演の内容はアンモニアバリューチェーンの開発状況、カーボンリサイクルの取組み、そうまIHIグリーンエネルギーセンターの紹介、環境価値の見える化（プラットフォームの構築）などであった。設備見学は液体アンモニア燃焼ガスタービンを見学した。アンモニア燃焼では排ガス中の窒素酸化物低減が重要な課題で、見学した装置では燃焼条件の最適化や排ガス処理により、窒素酸化物濃度を環境規制に適合する濃度に制御・低減可能であることを認識した。

2つ目のテーマとして、坂元氏からイノベーションの取組みと共創活動の状況について紹介いただいた。新事業の提案活動は活発に実行されており、ファシリテーターの存在が重要であることを強調された。社員をファシリテーターとして教育する仕組みを構築しつつあるが、まだ十分な人数を確保できていないことが課題とのことである。オープンイノベーション拠点として2か所の見学を行った。「つなぐラボ」はIHIの技術・製品の展示を起点に、ユーザーとの対話を通じて新しい課題解決のきっかけを見出すことがコンセプトとなっている。さらに共創活動を推進するため「i-Base」を設置されており、こちらはデザイン思考を取り入れた施設で、自由に議論できる雰囲気作りや簡単な試作評価できるエリアが併設され、新たなアイデアを素早く検証するサイクルを回して早

期事業化を図るコンセプトである。共創活動は参加した参与会の企業メンバー共通の課題で、多くの質疑応答が行われた。

今回のIHI見学は、参与会メンバーが新たな知見を得る機会となり、有意義な訪問ができたと考える。また、黒木氏をはじめ、ご準備いただいたIHIに深謝する。施設見学、講演会では質疑、議論が非常に活発に行われ、参加者にとっても貴重な情報交換の場が提供できたものと思われる。今後も参与メンバーの要望、関心事を伺い、当学会としても参与会を有意義な情報交換、情報発信の場としていきたい。



図1 講演状況（講師：坂元氏）



図2 参与会参加メンバー